

～豊かな心と確かな力 瞳輝く寒川の子～

寒川町立旭小学校

研究テーマ：自ら課題を見つける旭の子 ～問いを立てる活動を通して～

1、実践の目的

これまで本校では、言語活動を充実させるために豊かな言葉で文章表現ができる力を培ってきたが、社会の変容を踏まえ、「学びに向かう力」の育成を充実させたいという思いが強くなってきた。

そこで、主体的に課題を見つけ、他者との協働と対話を取り入れながら、互いに学び合い、さらに自分の考えを広げたり深めたりする力をつけてほしいという願いから研究主題を「自ら課題を見つける旭の子」と設定し、研究の手法として問いを立てる活動を取り入れることにした。

今年度は、これまで取り組んできた国語科以外の教科で、どのように問いを取り入れていくことが可能かを模索することを目的とした。

2、実践の内容

国語科における問いを立てる活動は、国語科の目標に向かう手法の一つとして、物語教材を学習する際に行っている。問いを立てるということは、自ら課題を見つけようとしている姿勢そのものであり、3つの資質・能力のうち「学びに向かう力、人間性等」を育むことをねらっている。

今年度は校内で特に教科を統一せず、問

いを取り入れられそうな場面を学年で検討し、他学年と共有することとした。

生活、社会科については、日常生活やこれまでの学習における知識をもとに、気になることや不思議に思うことから問いを立てることが多かった。単元を貫く問いになることが望ましく、問いが学習課題となる。

道徳では、道徳的価値を考えるための問いを立てる活動を行った。

体育、音楽科については、授業の中で感じた「難しかったこと」「どうしたらうまくいけるのか」をふり返りに書かせ、そこに表されている問いを次時以降の授業の中で取り上げ、共有し、課題解決の方法を見出していた。

3、実践の成果

算数・音楽・道徳・社会で問いを使った振り返りを取り入れた授業を行った。

1年で行った算数では、授業を終えた後に行動指数ではなく、「今日分かったこと」という記述式の形で振り返りを行った。低学年では、書く活動に多くの時間を要するため、振り返りを時間内に終えることができないという課題が出てきた。

2年で取り組んだ算数では、「やったこと、わかったこと」を記述式で振り返る活動を行った。

3年で取り組んだ音楽では、本時を終えて「気づいたこと、考えたこと、感じたこと」を記述式で振り返りに書かせる活動を行った。実際に児童が振り返りに書いた課題を、次時の導入で児童に示し、その時間の目標に設定した。児童が学んだ内容を再確認できる、また、次の活動に生かすことができるという成果を見ることができた。

4年でも音楽の授業で振り返りの活動を行った。3年生の記述式に加え「理解度・難易度・興味度」を3段階で測ることのできる形で振り返りを書かせた。はじめは、行動指数に1や3など両極端な数字を書く児童が多かったが、次第に2も増え少しずつ自分事として考えられるようになってきた。しかし、3段階だと大まかにしか測れないため、5段階で測るほうが良いと感じた。

5年で取り組んだ道徳では、「授業で学んだこと、これから生かしていきたいこと」を記述式で自分の言葉でまとめノートに書いた。また、まとめの前にタブレットを使用し、お互いの考えを共有した上で書かせた。児童それぞれが自分事として考え振り返ることができていた。

6年で取り組んだ社会では、「YWT法(Y やったこと・W わかったこと・T 次に生かしたいこと)」を記述する手法で振り返りに取り組んだ。本時では国際問題に対する調べ学習を行う活動であり、毎時間の振り返りで書いたことを生かし、自分の調べ学習に生かすことができていた。また、児童同士で振り返りを共有し、書いたことに関わらず互いの活動を知りながら個人の学習をそれぞれが進めることができていた。また、振り返りを生かした授業づくりであったため、毎時間どんなことについて学習しているか立ち返ることができた。

たけのこ級では、国語科での授業に取り組んだ。休みの日の話を「いつ・どこ・だれ・なに・きもち」を短い文として書き、発表を行い、聞き手は定型の問いで聞くことでより話を詳しくする活動を行った。また今年度は、質問を終えた後に振り返りの形として、質問で付け加えられた内容を含め、再度発表することができた。この、「休みの日の話」の活動を行うことによって、ひらがなの書き方を学び、話し方、聞き方など学習の根本になるところを学ぶことができることが大きな成果となった。たけのこ級の児童にとって、事後の振り返りは難易度が高いものであり、メンバーも代わることもあるため来年度も継続して取り組んでいくようにする。

4、今後の展開

振り返りに関しては、低学年では記述ではなく、行動指数を取り入れた形で書かせる。中学年では、記述と行動指数で書かせる。高学年では記述のみで書かせ、振り返りを生かし、個人の学習課題にしていくことが有効ではないかと新たな仮説を立てることができた。しかし、今年度の大きな課題は、教科を絞らなかったことである。教科を広げて取り組んだことにより、学年ごとに指導を系統立てていくことの難しさを感じた。

来年度は、校内全体での研究の統一性を目指し、全学年で同じ教科に取り組むことで、さらに児童の主体性を伸ばしていきたい。